

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2591300062		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム やすの憩 2階		
所在地	滋賀県野洲市行畑881番地		
自己評価作成日	令和4年2月27日	評価結果市町村受理日	令和4年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8-138		
訪問調査日	令和4年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様ファーストの法人理念に加え「愛情いっぱい」「笑顔いっぱい」をコンセプトに施設運営にあたっている。毎月の会議の中でご利用者の様子等を話し合うのはもちろんの事、業務に無駄がないかどのように工夫すればご利用者様と関わる時間を増やすことができるか等話し合い業務の見直しを行っている。ご利用者様に役割を持ってもらう事(洗濯たみや盛り付け等)や、たわいのない会話を楽しんだり・レクリエーション活動(歌やゲーム・おやつレク等)・生活リハビリ等ご利用者様と関わりを多く持つことでご利用者様にとって居心地の良い空間作りができればと考えている。コロナ禍が続く中、自由にご面会ができずにご家族様ご利用者様にはご不便をおかけしているが、少しでも安心していただければと思い職員全員力を合わせブログを毎日アップデートできるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の一角に建ち、駅までは徒歩圏内である。管理者は法人理念を最も大切にしている。毎月のユニット会議や全体会議で理念を唱和し、職員全員が介護のスペシャリストを目指し、入居者に対して常に笑顔で接し、寄り添いの心を持ち続けた介護を行っている。入居者一人一人が生きいきとした表情をしており、職員が笑顔で明るく接している。コロナ禍においても、できる限り散歩や買い物に出かけたりしている。日々の様子を毎日ブログを更新し、家族には安心してもらえるように努力している。ブログでのアップデートは「日中の表情が見られて、とても安心しています」といった好評を得ている。健康面に対しては、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士等が連携を図り健康管理を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議及び全体会議で施設の理念「すべての人の笑顔を目指して」と「我々の接遇5原則ルール」の唱和を行い、共通認識のもと業務を行っている。	玄関の右壁に、法人理念と接遇5原則ルールを掲示している。特に挨拶、態度、表情、身だしなみ、言葉遣いの5原則を職員ひとり一人が大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為現在交流は難しい状況にあります。	閑静な住宅地に立地している為、地域との繋がりを大切にしている。散歩や買い物に出かけた時には、近隣住民と気軽に挨拶ができるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為行事等に外部の方をお招きする事ができなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為運営推進会議は開催できていない状態ですが、定期的に関係者様にレジメを送りご意見いただけるようお声掛けさせていただいています。	コロナ禍の為、書面での開催に切替えている。会議は市の高齢福祉課職員・介護相談員・自治会長・家族が構成員となり、入居者の状況や事故・ヒヤリハット報告などを行っている。	運営推進会議の地元メンバーは自治会長一人となっている。今後、地域との付き合いや連携を深めていくためにも民生委員の参加は有効と思われる。引き続き参加の依頼をすすめてもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍においての施設での状態や施設での取組等を定期的に報告したり野洲市さんより感染症や食中毒等に関する情報をいただきそれを参考に施設内で取り組んでいる。	高齢福祉課との連携を密にし、困りごとや問題が生じた時には、気軽に担当者や相談している。コロナウイルス感染防止対策も、高齢福祉課等と連携して、万全な対策を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が見られる方に対しても制止するのではなく、受け止めて一緒に関わりを持つ様なケアができる様カンファレンスや全体会議を通して職員に伝えている。	身体拘束虐待防止委員会を毎月開催している。事例検討を中心に、法人内・施設内研修を行い、職員ひとり一人が、身体拘束や虐待防止等の知識を深めている。玄関の自動ドアについては、入居者の安全と防犯上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックを中心に言葉遣いについて話し合う事が多くあった。		

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	処遇改善勉強会にて定期的に学習及び話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約終了の際は、説明をしっかりと行う事に加えご家族様からの話を聞かせていただくことで不安な思いが解消できるよう努めている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様から電話等でご意見ご要望を伺った際にはリーダー会議又はフロアー会議で話し合い全体会議にて発表し運営に反映させている。	家族からの意見の反映については、面会可能な時期には玄関のガラス越しでの面会時や、直接電話でも話している。毎日ブログを更新し、入居者の様子をご家族に伝えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のリーダー会議で各フロアーリーダーより吸い上げた現場の声を議題にあげ各フロアーリーダーと管理者で話し合い全体会議にて発表し運営に反映させている。	職員からの現場の声が、月2回開催されているリーダー会議、フロアー会議、全体会議で話し合わせ、運営に反映している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系をとっており、資格を取得した際には「祝い金」も支給される。またグループ内で資格をとれるサポート体制が充実しており職員は無料で研修に参加できる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修に参加できるよう支援している。また段位制度を取り入れ自施設での研修も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の処遇改善勉強会に加え月1回リモートでの管理者会議や管理者研修及びリーダー研修を行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の表情や行動言動を見ながら傍に寄り添い関係づくりに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前には、ご家族様からアセスメントを行いその際にご意見やご意向不安に感じる事等を聞き相談しながら前向きに検討解決していけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談時にご利用者様本人とご家族様からご要望や想いを聞き話し合いながらサービス内容を提案しその方が過ごしやすい環境づくりに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみ・テーブル拭き・織い物等無理のない範囲での役割を持っていただき職員とご利用者様と関わりながら作業をしていただく事を心掛けている。その際には「お願いします」「ありがとうございます」などの言葉かけを大事にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話での対応の際やお届け物をされた際等に様子をお伝えする様にしているとともにブログにてご利用者様のお顔を見て安心していただければと思い毎日アップできるようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為できずにとても残念に思う	コロナ禍で面会を制限しているが、馴染みの人との関係が途切れないよう心掛け、玄関でのガラス越し面会、リモートでの面会ができるように工夫している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格等のアセスメントをし利用者同士関わりやすく過ごしやすいよう席の配置を工夫したり職員が間に入り会話をつなげたりしている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係性を大切に相談や情報提供などの支援を必要に応じてできる様努めている。お野菜を持ってきてくださったりご連絡くださったりと今でも施設にご協力していただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	看取りの方を含め何ができるのか、どんな風に過ごして頂けるのか考えながら活動に参加していただいている。	毎月1回ひとり一人から思いや希望等を聞いている。意思表示が難しい方には、何気ない会話の中から思いを感じ取り、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしなどを話で聞いてできるだけ生活リズムを崩さない様支援していけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に利用者様の行動や言動心身の状態等を記録に残し状況把握に努めている。また、個人の記録で重要な物はレポート機能を使い申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ご利用者様の要望を聞く時間を設けるとともに毎月1回カンファレンスを行っている。医師や看護師・歯科医・薬剤師・管理栄養士・理学療法士等の専門職の意見も聞き介護計画を作成している。	毎月一人ひとりから要望を聞く場を設定している。看護師が毎週火曜日にひとり一人の健康状態を観察し、医師、理学療法士、管理栄養士に情報提供している。共有された専門職の意見を介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録するとともに退院時や薬等が変化した時・入所時等には別に様子を記入する用意し気づいた事やあったことをその時々気づいた職員が記入し介護計画の見直しや日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方が持っている能力や本人様の希望などを毎日のかかわり(塗り絵・作品作り・洗い物・会話等)の中で模索しながらその方の心地よい生活作りに努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為なかなか思うようにはできないが散歩やドライブには参加していただけるよう努めている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に施設の提携医の説明を行い今までのかかりつけ医への受診を継続するのか施設の提携医に変更するのか又は施設の提携医と専門医を併用するのか確認をしご本人様及びご家族様に選択していただいている。	月2回定期的に往診がある為、すべての入居者は事業所の提携医が主治医となっている。専門的診療は原則家族の付添で通院しているが、必要に応じて受診に職員が同行することもある。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携しやすいようにノートを設置し職員(看護師)からの気づき等を記入している。訪問時はそのノートを活用し職員からも日常のかかりの中でとらえた情報や気づきを口頭でも伝え相談をすることによって利用者様が適切な受診やケアができるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際安心して治療ができるように速やかな情報提供を行うとともに家族様と病院とのパイプ役になれる様努めている。退院時は、病院看護師や相談員と密に連携しスムーズに退院できるよう柔軟に対応している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応の指針」を入所時に説明し同意を得ている。医師が看取りと判断された際はなるべく早い段階で説明の場を設け施設でできることできない事や家族様本人様の希望等を確認し介護計画に反映させ職員が共通認識を持ち終末期の支援体制を整えている。	入居時に重度化対応と看取りの指針について家族に説明し同意を得ている。終末期には医師から家族に説明し家族の意向を確認後、看取りに入っている。医師、看護師、職員、家族での連携が図られている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア内に急変時の対応マニュアルを貼り付け定期的に確認を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通常であれば避難訓練の際は消防署の方に来ていただき消防署の方に確認や指導をしていただいているがコロナ禍の為職員のみで行った。	避難訓練は夜間想定も含め実施しているが、夜間帯における2階からの避難については地域との協力体制が不可欠と思われる。今後、地域の協力を得て実践的な訓練を実施してもらいたい。

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月全体会議やユニット会議で「接遇5原則ルール」を唱和するとともに身体拘束虐待廃止委員会で利用者様を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について話し合い報告し周知している。	毎月の全体会議やユニット会議で、接遇5原則(挨拶、態度、表情、身だしなみ、言葉遣い)を唱和している。身体拘束虐待廃止委員会でプライバシーに関する話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択がなかなかできていなかったりもしますが以前より意識してできてきているように思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には本人様の自由に過ごして頂くことを優先させ何をして良いかわからない利用者様には職員が寄り添い提案をさせていただきできるだけ希望にそわせていただくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様や本人様に好みの洋服や普段着ていたものを持ってきていただき着用していただいている。2か月に1回の理美容の際には本人様の要望に合わせてカット・パーマ・毛染め・顔そりを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方にはできるものをできるだけをコンセプトに声掛け等しながら行っている。毎月お客様の要望をお伺いする際に食べたいものも伺いレクや行事に反映させている。	毎月食べたいものを聞いている。フルーツが食べたい、メロンが食べたいと言う希望があり、各行事等で食べたい品物を提供している。たまに入居者の友人からお肉等が送られてくることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録やチェックを毎日行っている。医師や看護師に相談し日々の健康状態や排泄状態も確認しながら一人ひとりの方に応じた支援を行っている。毎日の食事は、管理栄養士が栄養バランス等を考え作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が毎月歯科衛生士より口腔内に関しての講習を受け毎日のケアで困っている事やわからない事等を相談し助言していただいている。定期的に口腔内のチェックをしていただき必要な方には歯科医師より訪問診療をしていただいている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	データをとり個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導又は声掛け等の支援をしている。言葉で上手く伝える事ができない利用者様には排泄サインを見つけ見逃さない様誘導しできるだけ排泄の失敗を軽減できるよう努めている。	入居者の排泄状況をチェック表に記載している。職員はプライバシーに配慮しトイレへの声掛けや排泄誘導・介助を行っている。入居者が便秘等で困らないように、適時排便調整を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し食事量・水分摂取量も加味してアセスメントをおこない医師や看護師に相談をしたうえで服薬・水分・食事・運動等ここに応じた対応を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を行っている。本人の希望やタイミングに合わせ無理強いする事無く順番をずらしたり言葉かけを工夫したり対応職員を変えたり等している。	入浴は週2回で、自立している入居者に対しては、ゆっくりと入浴をしてもらうために、見守り介助を行っている。入浴を嫌がる入居者には声掛けのタイミングを見て、入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなったらソファや居室のベッド等自由に休んでいただけるよう環境整備や声掛け等を行っている。気持ちよく休んでいただけるように定期的にシーツ交換や布団干しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月1回薬剤師が来られた際に利用者様の状況等を職員より情報提供している。薬剤師よりその方に合った服薬方法等を伝えていただいている。薬について職員も質問がしやすい関係性でもあるのでありがたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たみや繕い物・料理・盛り付け・塗り絵・作品作り等一人一人の好みや能力を活かした作業の提供を行う事で活躍の場を設けたりメリハリのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であるため出かける機会は少ないが散歩や少人数でのドライブは、継続して行っていきたい。	コロナ禍の為、以前のような頻回な外出は減っている。しかし、希望に添えるよう近隣への散歩やお買物に出かけている。テラスでの日光浴等を行っている。感染対策を十分に整えて少人数でのドライブ等に出かけたりもしている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望された際にはスムーズに電話でお話ができるようにお手伝いさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃・消毒には力を入れている。トイレは冬になると寒くなるので夜間は使用していないときは扉を開けフロアの空調が届くようにしている。	全ての部屋には窓があり、毎日温度調節や換気を行っている。特にコロナ禍でもあり、換気等には細心の注意を払っている。食堂などの壁には、各種行事の写真が展示されている。部屋全体が明るく清潔感に満ちている。食堂や浴室、トイレ等も掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはテラス・各ユニット内の共有スペースにはソファや大型のテレビがあり思い思いの場所で過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には居室内は以前お過ごしだった様な物の配置にしている。大事にされていたペットの写真や花(造花)を飾ったり個人用のテレビを置いておられる方もおられます。個々の好みに合った過ごしやすい空間作りができるよう支援している。	入居前に使用していた家具や机、椅子、テレビ等を持ち込まれている方もいる。可能な限り自宅で使い慣れた物品を部屋に設置し、居心地よく過ごせるように配慮している。家族の写真等を飾ったりしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。トイレや浴室・居室等に表示をしわかりやすいように工夫している。		

2 目標達成計画

作成日：令和 4 年 4 月 3 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域との付き合いや連携を深めていくには、運営推進会議により多くの地元メンバーの参加が望ましいが現在自治会長一人のみとなっている。	地元メンバーの参加者を増やす。	高齢福祉課へ今年度の民生委員を確認し連絡及び依頼を行う。	6ヶ月
2		現在毎日のブログアップと半年に一度の写真の送付を行っているが、ご家族様よりアンケートにて「書面で毎月様子を知らせてほしい」という要望があった。	できるだけ回数多くご家族様に顔写真つきのご利用者様の様子を書いたお手紙を送る。	まずは偶数月には必ず送れるように取り組む	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)		
1	サービス評価の事前準備	○	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った	
			②利用者へサービス評価について説明した	
			○	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
			④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した	
			⑤その他()	
2	自己評価の実施	○	①自己評価を職員全員が実施した	
			②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った	
			③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った	
			④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った	
			○	⑤その他(管理者、リーダーとともに自己評価を実施した)
3	外部評価(訪問調査当日)	○	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった	
			○	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
			○	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④その他()	
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	○	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った	
			②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った	
			○	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
			④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った	
			⑤その他()	
5	サービス評価の活用	○	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した	
			②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)	
			○	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
			④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)	
			⑤その他()	